

「主体的な学び 対話的な学び 深い学び」 意識して授業をするために

は・・・

**教育公務員として児童に学習指導要領に求められている授業を提供するのは責務**  
その為に必要なことは

- 単元計画（国語・算数・理科・社会・総合的な学習の時間）・主要 4 教科は特に教材研究を！授業の始めに教科書を開いて考えてはいませんか？  
前もって明日の授業内容は把握し必要な準備物は用意する。（市の支援員と協力を）
- 週案作成（毎週金曜日）学年間で、また特別支援学級と通常学級は常に授業構成を話し合うこと。
- 一人一人の学習状況を把握して学習を進める。市支援員と協力をする。
- 1 2 人の児童にその学年の力を確実につける最大限の努力をする。（①教材研究→教科書を読み解く②児童理解→児童の反応を理解し授業を構成する。③教材準備→支援員との連携）
- 個人カルテを作成する。（2 学期になって全く記入されていない）
- 校内研の継続化  
提案授業は日々の授業に生かすために実施するもの。「学び方 book」「見通しボード（学習リーダー）」育っていますか？使っていますか？

小学校の教師は全教科の教材研究をすることが当然求められる。しかし、毎日、明日の全時間の教材研究をするのは物理的にも難しい。特に複式の場合 2 学年分となり教材研究に時間がかかる。本校では教科担任制としていることから、主要 4 教科においては【A 教員：算数（1・4・5・6 年）国語（5・6 年）B 教員：国語（1・4 年）算数（はまゆう）社会（4・5・6 年） C 教員：国語（5 年）理科（4・5・6 年）】と主要 4 教科を全て教材研究するより時間的余裕はある。確かに、全時間受け持つと自分流で学級経営・教科経営でき、他の教員との常時の連携も必要なくなるが、果たして、それが本当に子どものためになるのか。本校のような何年も同じ児童を受け持つ場合の弊害も無ではない。

従って、せめて主要 4 教科の教材研究は成し遂げてもらいたい。そうしないと、児童に力はない。我々教員の使命は児童に学力をつけること。その為に必要なことは、何より自己の授業力を高めることに他ならない。言葉だけの指導ではなく、しっかり勉強した指導を今後もお願したい。